

# 1. トウモロコシの根っこってすごい<表現活動を通して> 神戸市立小東山幼稚園（兵庫県神戸市）

[5歳児]

## 5歳児 身体表現の窓から

### 事例3 トウモロコシの根っこってすごい

身体表現をすることによって、自然物を自分に重ね合わせ、その気持ちに寄り添い、成長や変化を自分のことのように捉えていく事例

#### ■4月下旬 土作り ■5月上旬 植え

身体表現 ねらい 土になって遊ぶことを楽しむ

#### <種まきのための土作りを経験する。>

土に、腐葉土や牛糞、鶏糞などを次々に入れて土作りをする活動の身体表現をする。土になって動いたり、次々に栄養が混ざっていったり、空気も入ってふかふかの土になっていく表現を全身で楽しむ。

土になって身体表現をした後、すぐにトウモロコシの種を植えた。ポットに土を入れる時、こぼさないようにそっと入れていた。種を入れ、「土のベット、ふかふかやで」とそっと土をかけた。

◎一人一人が、大切な栄養になることで、土に対する愛情がわき、種まきの際に気持ちを込めて、やさしく土をかけたのだろう。保育者が「やさしくね」と言わなくても、幼児たちからその気持ちがでてきた。

#### ■土の中で何しているのかな？

水遣り後、ポットをのぞき込んで、「いっぱいお水飲んでね」「まだ、でーへんなぁ」と友達と話しながら、芽が出るのを心待ちにしていた。

身体表現 ねらい 土の中のトウモロコシの種になることを楽しむ

#### ■5月7日 発芽、成長

登園して身辺整理を済ませると、すぐに野菜の水遣りをする。「あ、芽が出てる！」トウモロコシの芽を発見すると、友達に知らせに行った。芽が出ると日ごとに成長した。1週間後、黒いポットでは小さくなってきたので、花壇に植え替えることにした。子どもたちとポットからトウモロコシの苗を取り出すと、白い根っこが想像以上に絡まって伸びていた。「わー、すごい根っこや〜！」「根っこも伸ばしとったんか」「狭かったやろ。広い所にいくからな」と話した。そして、身近な専門家（管理員）から根っこが水や栄養を吸い込むことを聞くと、不思議そうに見ていた。

身体表現 ねらい 力強い根っこになって動くことを楽しむ

T 「ここには、みんながつくったふかふかの土があるよ。みんなの種を植えて」と、種を植える動きをする。

C (半数の子が) 種になって出てきて丸くなる  
うずくまる子

仰向けで丸くなる子  
しゃがんで丸くなる子

C 「先生、土かぶせな」

T 「そうね、お願いします」

C (半数の見ていた子が)  
土をかけに行く

C (種になっている子が)  
「お水もちょうだい」

C 「ジョウロに水をくんできて」

C 「はい、お水だよ。いっぱい飲んでね」

C 「おいしい〜」「つめた〜い」

C (水遣りの子たち) 「早く芽が出るといいなあ」

C (種の子) 「すぐには出ないんやで」

T 「ふかふかの土のベッドが気持ち良くて寝てるのかな？」

C 「うん」

T 「早く芽が出るといいね」

C 「うん！！」



はい、お水ですよ  
いっぱい飲んでね



種から根っこがでてきたよ

T 「いっぱい伸びて、お水や栄養を吸ってね」

C 「どんどん伸びていくんだ！」

T 「わあ、すごい根っこ！頭の方からお腹からも根っこが伸びてる！先生には見えるわ」



ほんまやな  
H君の根っこすご〜い



◎根っこを見たことでイメージしやすいのが、誰もが意欲的に「自分の根っこ」になって表現していた。

◎根っこになって伸びていく表現を幼児同士が見合うことで、友達の思いを知り、根っこが伸びていく力を感じ取った。互いの表現の違いを見合うことで、自他の良さに気付いていった。

#### ■6月19日 これ どうなるのかな？！

トウモロコシの根っこに興味をもった幼児たちは、茎の下の方から、2本の短い突起物が出ているのを見付けた。翌日「みんな、2やったんが、5になってるで」と知らせる。その突起物はどんどん増え、15本になり下の方に向かって伸びだした。「何やろ？」「新しい茎か？」「枝ちゃうか」と話している。そこで、「これ、どうなるのかな？」と札を立てて、しばらく様子を見ることにした。

数日たつと、幼児たちは「大変や伸びてるで！」と言う。確かに地面に向かって伸び続けた。突起物を見付けたから1週間後、何と地面に突き刺さった。

わぁ、土の中に入った！  
すごい！  
これも根っこかぁ  
根っこってすごいやんか



幼児たちに「どうして突き刺さったのかな？」と聞くと「何でやろ??」と首をかしげていた。

#### ■先生、みんなで根っこになろうよ！

クラスで根っこが地面に突き刺さったことが話題になると、幼児たちから「根っこになろう」と声があがり、根っこになって遊んだ。



◎根っこが地面に突き刺さったことに驚いた幼児たちは、自分が見つけたことを表現したくなった。やりたい時にタイミングよく表現できる場を保障することが大切である。

◎「どうして突き刺さったのか」ということについてははじめは首をかしげていたが、体を動かしながら、また友達の表現を見ながら、トウモロコシの実が大きくなってきても倒れない、支えになるということに気付いていった。

#### ■6月27日 お手玉の中から種？

お手玉で遊んでいた女兒が、「先生、お手玉が破れて種が出てきてん」と言う。見るとトウモロコシの種だった。3年前に地域のお年寄りの方からもらったお手玉の中身は何と乾燥したトウモロコシだった。幼児たちが植えてみようというのでお手玉から出てきた2粒だけ植えてみることにした。

#### ※え～出た！ほんまに芽が出た！

4日後、お手玉のトウモロコシの種が見事に発芽した。半信半疑だったので、こんなに早く発芽したことに、みんなは思わず手をたたいて喜んだ。

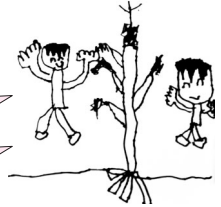
◎トウモロコシが出てきた時「種（命）」として感じている。

◎今までの経験から植えてみたら種がでるのではないかと予測した。それが実現すると「やっぱり出た」と喜んでた。

#### ■7月19日 5月に植えたトウモロコシの収穫 皮むき・食べる

うーん、なかなか取れないよ！

めちやめちや、甘いなぁ



#### ■8月31日 お手玉のトウモロコシも大きくなって！

夏休みの間に成長したお手玉のトウモロコシに驚く幼児たち。



#### ■9月4日 根っこを抜く！

冬野菜を植えるために、枯れたトウモロコシをみんなで抜いた。



枯れていても根っこを張っているトウモロコシになって遊ぶ。

#### ■9月10日 トウモロコシのうた♪

お手玉のトウモロコシの実が大きくなり、ひげが茶色く色づいてきた。幼児たちが、その様子を見て「早く食べたいなぁ〜♪」と節をつけて口ずさんでいた。歌詞やメロディーをみんなで考えて歌った。

◎幼児は感動したとき、表現したくなる。5歳児は、身体表現を通して保育者や友達とイメージを共有したり、かかわったり、一緒に考えたりすることができる。友達と一緒に根っこになることで、心を動かし友達の感情にも気付いていった。その中で根っこの面白さ、不思議さ、力強さを身体で感じ取り、命の大切さを学んだ。

◎お手玉の中からトウモロコシが出てきたことで、幼児は「きっとこの種からも発芽する」と予測し、試したいと思った。今までの身体表現の経験から、1粒の種に命を感じていたのだろう。保育者は、こういった機会を逃さず、やりたいことをすぐにできるよう環境を再構成することが大切である。

## ポイント

栽培活動の経験を振り返り、友達と気付きや感動を共有できる「表現」を大切にするように環境が工夫されています。特に、お手玉から出てきた「トウモロコシの種」との出会いや「種から発芽する」という種の命への思いを逃さず保育者を取り上げ、体験を振り返り予想して試すことができるよう“環境の再構成”をすることで、種に命を吹き込み、発芽を喜ぶという貴重な体験ができました。日常的な展開だけでは十分に表せないことでも、のびのびと表現できたことで、体験を通じた考えや思いが「命の大切さ」の学びに結びつきました。